

2023年度

香川大学大学院農学研究科（修士課程）

日本の食の安全特別コース

春入学私費外国人留学生募集要項

香川大学大学院農学研究科は、日本の食の安全特別コースを開設し、春入学外国人留学生を募集する。

1. 設置目的

食品関連企業や海外展開する日系食品企業とコンソーシアムを形成し、「日本の食の安全」の観点から、農産物の育成・飼育・収穫・加工・流通・販売に至るまで総合的に食の安全に必要な能力を体系的に身につけ、日本語や日本文化を正しく理解した優秀な国際人、且つ経営感覚を身につけ企業幹部となりうる人材を育成する。

2. 求める学生像

設置目的をよく理解して、「食の安全」の観点から、積極的に日本語及び日本企業におけるビジネス文化を学習・研究する意欲を持ち、日本での学生生活に適応する能力かつ入学前に日本語レベルがN3と同等以上を取得し、本コースを修了後、日本企業又は日系関連現地法人への就職を希望する者。

3. 専攻分野

入学志願者は、7 ページの表の「本コースの主な指導教員と専門分野」を確認し、希望専攻分野及び希望指導教員を決めて、あらかじめその教員と連絡を取り、修士課程での研究計画の打ち合わせをすること。

4. 渡日前入学許可制度

「渡日前入学許可制度」とは、提出された書類及びインターネットインタビュー等により審査を行い、合格者の入学を許可する制度である。この制度を利用すれば、受験者は日本で試験を受けることなく入学許可を得ることが可能である。本募集については、「渡日前入学許可制度」を適用する。

5. 専攻及び募集人員

専 攻	募 集 人 員
応用生物・希少糖科学専攻	私費外国人留学生 若干名 (ただし、1大学あたり推薦志願者は3名までを目安とする。)

6. 受入期間

2023年4月～2025年3月（2年間）農学研究科日本の食の安全特別コース修士課程

7. 出願資格及び条件

(1) 資 格：指定校（以下指定校一覧参照）に在籍している者、又は指定校を卒業した者。

指定校一覧

バングラディシュ	ダッカ大学、シェレバングラ農業大学
ブラジル	ロンドリーナ州立大学
ブルネイ	ブルネイダルサラーム大学

中 国	浙江工商大学、南京農業大学、天津農学院、浙江大学、中国農業大学、江南大学、香港大学
英 国	ノッティンガム大学
インドネシア	ボゴール農業大学、ガジャマダ大学、ハサヌディン大学、ディポネゴロ大学、スマラン国立大学
インド	デリー大学
マレーシア	ブトラマレーシア大学
台 湾	国立嘉義大学
トルコ	中東工科大学
タイ王国	アサンプション大学、カセサート大学、チェンマイ大学、メチョー大学、チュラロンコン大学、シラパコーン大学
米 国	カリフォルニア大学デービス校、オレゴン州立大学、ミシガン州立大学、テキサス A&M 大学
ベトナム	カントー大学、ハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学
フィリピン	フィリピン大学 ロスバニョス校

上記以外で、香川大学と学術交流協定を結んでいる大学及び香川大学大学院農学研究科長が認めた大学

- (2) 対 象：外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2023 年 3 月 31 日までに修了見込みの者であって、修了校又は在学校の部局長（学部長等）以上の推薦を受けられる者で、かつ日本語能力試験（JLPT）N4 程度以上の日本語能力を証明する書類を 2 月 22 日までに提出できる見込みの者。
- (3) 国 籍：外国の国籍を有する者
- (4) 年 齢：1988 年 4 月 2 日以降に出生した者（2023 年 4 月 1 日現在で満 35 歳未満の者）
- (5) 学業成績：学業成績係数を次に定める方法で求め、社会人は最終学歴の学業成績、在学生は現在在籍する課程の学業成績係数が 3 点満点中 2.10 以上である者。

[学業成績係数の算出方法]

下記の表により「評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて計算すること。

区分	成績評価				
4 段階評価		優	良	可	不可
		A	B	C	F
		100～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点～
5 段階評価	S	A	B	C	F
	A	B	C	D	F
	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点～
評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

$$\{ (「評価ポイント 3 の単位数」 \times 3) + (「評価ポイント 2 の単位数」 \times 2) + (「評価ポイント 1 の単位数」 \times 1) + (「評価ポイント 0 の単位数」 \times 0) \} \div (総登録単位数)$$

【注 1】履修した授業について単位制をとらない場合は、単位数を科目数に置き換えて算出すること。

【注 2】編入学している場合は、編入学後の単位数を対象とすること。

【注 3】上表の成績評価にない評価（例えば、「認定」、「合格」など）は対象としないこと。

【注 4】学業成績係数に端数が出る場合は、小数点第 3 位以下を切り捨てること。

- (6) 健 康：心身ともに健康で、大学院における学業に支障がない者。

- (7) 語学能力：

- 1) 英語または日本語で十分な意思疎通を図ることが可能な者。
- 2) 出願時に、日本語能力試験(JLPT)N4【注 1】程度以上の語学力のある者。

【注1】日本語能力試験(JLPT)N4・・・基本的な日本語を理解することができる。

※参考URL：<https://www.jlpt.jp/index.html>

なお、本特別コースでは、修了要件として日本語能力試験N2と同等以上の日本語能力を必要としている。

時 期	日本語能力試験のレベル
出願時(2023年2月)	日本語能力試験N4程度以上
入学前(2023年3月上旬)	日本語能力試験N3と同等以上 ※これを満たさないと入学許可しない。
2024年1月	日本語能力試験N2以上を受験
2025年1月	日本語能力試験N2以上を受験・合格

(8) コンソーシアム参加企業等に就職することを強く希望する者

(9) 査証取得：渡日時に「留学」の査証を必ず取得していること。

(10) 事前に指導予定教員を決めて、あらかじめその教員と連絡をとり、修士課程での研究計画の打ち合わせを行っていること。

8. 選考日程

日 程	内 容
2022年12月9日(金)	募集要項公開、指定校へ送付開始
2023年1月19日(木)～2023年1月26日(木)	出願資格事前審査書類提出期間
2023年1月30日(月)～2023年2月10日(金)	出願資格事前審査(書類審査、口頭試問)
2023年2月13日(月)	出願資格事前審査結果発表・通知
2023年2月16日(木)～2023年2月22日(水)	願書受付期間
2023年2月24日(金)～2023年3月1日(水)	選考
2023年3月7日(火)(予定)	合格者発表・通知

9. 出願資格事前審査応募手続

応募者は、下記の書類をEメールで2023年1月19日(木)から2023年1月26日(木)(必着)までの間に香川大学大学院農学研究科(農学部学務係)へ提出すること。

【注1】これらの書類は、日本語又は英語で作成すること。原本が両言語以外で記載されている場合は、日本語又は英語による訳文を必ず添付すること。

(1) 入学志願票

(2) 出身大学(学部及び大学院)の成績証明書(出身大学で発行したもの)

【注2】成績証明書は、大学学部、大学院の学年毎に取得した全科目の成績が分かるもので、かつ、その成績が何段階で評価されているか明確に分かるものとする。成績証明書に何段階評価であるか明記されていない場合は、大学発行の評価表を添付すること。ただし、画面のコピーは不可とする。

(3) 出身大学(学部及び大学院)の卒業証明書(出身大学で発行したもの)(既卒者のみ)

(4) 昨年度の家計支持者の年収を証明する書類

【注3】家計支持者と申請者の関係が分かる書類を添付すること。

(5) パスポートのコピー

(6) 英語能力と日本語能力を証明する書類のコピー

(7) これまでの研究概要

10. 出願資格事前審査

書類審査及び口頭試問を実施する。

口頭試問は、対面形式で直接又は、インターネットを利用した双方向音声・画像通信のいずれかで

い、日本の食の安全特別コースプログラムに対する意欲、語学力（英語あるいは日本語）、専門分野の能力や素養などを提出された書類及びインタビュー（面接）により審査する。
日時については、別途志願者に連絡する。

11. 出願資格事前審査結果通知

事前審査結果は2023年2月13日(月)にメールで通知する。
電話等による審査結果の照会には、一切応じない。

事前審査を通過した者は各自希望する指導教員と直接連絡を取り、綿密な実験計画を立て、研究計画を作成すること。指導教員との連絡方法については、別途通知する。

12. 出願手続

上記出願資格事前審査の結果、資格有と通知された者は、下記の書類を2023年2月16日(木)から2023年2月22日(水)（必着）までに、香川大学大学院農学研究科（農学部学務係）へ提出すること。

【注】これらの書類は、タイプライターもしくはワードプロセッサを用いて日本語又は英語で作成すること。原本が両言語以外で記載されている場合は、日本語又は英語による訳文を必ず添付すること。

出願時提出書類一式	注意事項	
(1) 申請書		
(2) 専攻分野及び研究計画	応募者は、指導教員予定者と密接な連絡をとり、研究計画を作成すること	
(3) 学位論文の概要	A4 判紙で2～3 ページ	
(4) 出身大学の卒業（見込）証明書	卒業（見込）年月が明記されているもの	
(5) 在職証明書	就職していた者のみ（アルバイトは除く）	
(6) 出身大学（学部及び大学院）の成績証明書（出身大学で発行したもの）		
(7) 本国の戸籍謄本又は市民権等の証明書		
(8) 日本語能力試験に関する資格証明書のコピー ※出願者は 2023 年 3 月上旬（入学前）までに日本語能力試験 N3 と同等以上の資格証明書のコピーを別途提出すること。	原本の提出は必要なし	英語及び日本語の両方の証明書の提出が必要
(9) 英語能力に関するその資格証明書のコピー （例：IELTS, TOEIC 等）	原本の提出は必要なし	
(10) 写真 3 枚（最近 6 か月以内に撮影したもので 4.5 × 3.5cm。上半身、正面、脱帽、1 枚は申請書の所定の場所に貼付のこと。）	写真の裏面に国籍及び氏名を書くこと	
(11) 誓約書		
(12) 推薦書	所属大学等の部局長レベル以上	
(13) 健康診断書	最近 6 ヶ月以内に受診したもの	
(14) 検定料	30,000 円を所定の口座に振り込むこと	
(15) これ以外に必要な書類がある場合は、別途指示する。		

13. 選考方法

提出された書類及び研究計画により最終選考を行う。

14. 合格者発表

2023年3月7日（火）（予定）

合格者には合格通知書をEMS等で送付する。

15. 入学手続

私費外国人留学生合格者は、別途指示する期間内に入学料を納付し、入学手続を行うこと。（入学料猶予及び免除申請を行う場合は、入学料を納付する代わりに申請書を提出すること）所定の期間内に入学手続を行わなかった場合は、入学辞退者として取り扱う。

納付金 入学料 282,000 円（予定）

なお、入学時及び在学中に学生納付金が改定された場合には、改定時から新たな納付金額が適用される。

（参考）授業料 前期分 267,900 円（予定） <年額> 535,800 円（予定）

※授業料は原則、入学後納付すること。ただし、授業料免除制度も有

16. 入学時期

2023年4月

17. 注意事項

- (1) 香川大学における講義、実験、実習等の研究指導は、原則として日本語で行われる。
- (2) 入学手続を完了した者は、原則として2023年4月1日（土）までに渡日のこと。
- (3) 日本でのアパートについては、香川大学より斡旋、紹介する。
- (4) 本コースに入学する者は、修了後、日本企業又は日系関連現地法人への就職を誓約しなければならない。したがって、本コースから直接博士後期課程への進学はできない。

18. 奨学金と渡日費用

現在、下記の奨学金制度を設けている。申請方法については、入学前又は入学後別途通知する。また、渡日費用は自己負担とする。

例) コンソーシアム参加企業からの奨学金

香川大学グローバル人材育成特定基金事業奨学金

香川大学外国人留学生奨学援助事業 奨学金

文部科学省外国人留学生学習奨励費奨学金

その他民間団体からの奨学金 など

19. 申請書類等の提出先及び本件照会先

香川大学農学部学務係 日本の食の安全特別コース担当

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393

E-mail: gakumu-a@kagawa-u.ac.jp

Fax: 087-891-3022

HP: https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/afs_network/

表 「本コースの主な指導教員と専門分野」(注)

◆食料生産学分野

指導教員	専攻分野	主な研究内容
豊田 正範	作物生態生理学	作物の収量形成に関する生態生理学的・発育形態学的研究
松本 由樹	家畜生体機構学	①腸管栄養吸収を制御する神経制御機構の解明と動物資源生産への応用 ②動物資源生産に有効な機能性飼料開発と飼育環境評価法の確立

◆生物分子化学分野

指導教員	専攻分野	主な研究内容
佐藤 正資	生物活性化化学	天然有機化合物の新規な生物活性探索とそれらの応用開発
鈴木 利貞	バイオマス化学	樹木のリグナン・ネオリグナンの生合成・立体化学・化学合成; 外樹皮のスベリンの構造と生合成; 熱帯産樹木の生物活性成分の探索
深田 和宏	生物物理化学	生体関連両親媒性物質の物性と機能性に関するコロイド界面化学的研究

◆植物科学分野

指導教員	専攻分野	主な研究内容
野村 美加	分子植物栄養学	植物微生物相互作用に関する生化学的、分子生物学的解析

◆生命機能科学分野

指導教員	専攻分野	主な研究内容
櫻庭 春彦	酵素工学	微生物, 特に極限環境に生育する微生物が生産する酵素の機能および構造解析とその応用面の研究
渡邊 彰	微生物生化学	微生物, 特にキノコ類が示す生命現象の解析 (遺伝子・タンパク質レベルから個体レベルまで) とその応用面に関する研究

◆食品科学分野

指導教員	専攻分野	主な研究内容
小川 雅廣	食品タンパク質化学	食肉、食卵、魚介類、乳などの動植物性食品に含まれるタンパク質の機能改善に関する研究
川村 理	食品衛生学	カビ毒(マイコトキシン)や低分子有毒物質に対するモノクローナル抗体の作製と免疫化学的測定法の確立、これらの食品汚染調査、ヒト曝露とリスク評価に関する研究
高田 悟郎	応用酵素化学	微生物および酵素を用いた希少糖やオリゴ糖などの機能性糖素材の生産に関する研究、微生物の生産する酵素に関する構造的・分子生物学的研究
森本 兼司	酵素利用学	酵素や微生物を用いた糖転換反応を利用して希少糖を生産し、その用途に関する研究を行う。
米倉 リナ	食品化学	①食品の機能性成分の消化・吸収・機能性評価 ②オリーブ果実の加工法及び官能評価に関する研究
吉原 明秀	酵素利用学	微生物の生産する希少糖生産酵素およびそれら酵素を用いた様々な希少糖の生産に関する研究を行う

(注) この表に記載されていない指導教員とその専門分野を希望する場合は、以下のアドレスを参考に希望する指導教員と事前によく相談して、希望する指導教員の了承が得られれば選択することができる。

日本語版:

https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/?page_id=110

英語版:

https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/english/?page_id=105